

本研究報告に示された見解は、航空自衛隊幹部学校航空研究センターにおける研究の一環として発表する執筆者個人のものであり、防衛省または航空自衛隊の見解を表すものではありません。

2021年8月31日

## 研究報告 002

### 人民解放軍による台湾 ADIZ 進入と統合軍事演習

- 2021年8月17日の中国軍事行動の実体 -

防衛戦略研究室 相田 守輝

#### 1 はじめに

台湾周辺で軍事的プレゼンスを高める中国人民解放軍 (People's Liberation Army: PLA) の動きは、露骨な拡張主義に従い領域紛争を深刻化させ<sup>1</sup>、周辺諸国にとって強い警戒の対象となっている<sup>2</sup>。以下取り上げる台湾との軍事力の差は今や明確であり、中国の力に物を言わせる強硬姿勢に対し、近い将来、台湾侵攻が生起するのではないかと懸念されている<sup>3</sup>。

中国共産党の領土的野心と、国際社会の秩序に対する現状変更の意図が、国際社会において深刻な問題として意識されるようになった<sup>4</sup>。それは世界秩序の維持の観点から関心を持つ米英をはじめとする域外の大国や国連などとの関係においてもさることながら、より直接的な軍事的脅威にさらされている周辺諸国 (特に本稿の対象とする台湾) にとって避けることのできない問題となっている<sup>5</sup>。

こうした現状に対し、台湾は自らの実力のみによる対応の限界を認識し、米国をはじめとする国際社会からの協力を引き出すべく、外交努力を重ねてきた。その国際政治ないし国際法の枠組みにおける分析については、各種の専門

<sup>1</sup> Snyder, Jack, *Myth of Empire*, Cornell University Press, 1991.

<sup>2</sup> Allison, Graham, *Destined For War: Can America and China escape Thucydides' Trap*, Houghton Mifflin Harcourt, Boston, 2017.

<sup>3</sup> United States Senate Committee On Armed Services, *Hearing To Receive Testimony On United States INDOPACIFIC Command In Review Of The Defense Authorization Request For Fiscal Year 2022 And The Future Years Defense Program*, March 9, 2021, pp.47-48, [https://www.armed-services.senate.gov/imo/media/doc/21-10\\_03-09-2021.pdf](https://www.armed-services.senate.gov/imo/media/doc/21-10_03-09-2021.pdf), accessed by August 26, 2021.

<sup>4</sup> 濱本良一「スプラトリー諸島で再び中国の進出が活発化」『東亜』no.647、2021年5月、26-27頁。

<sup>5</sup> 加治宏基「米中対立の遠景としての国連における台湾問題」『東亜』no.649、2021年7月、10-17頁。

家（たとえば安田淳等<sup>6</sup>）による議論が重ねられてきている<sup>78</sup>。一方で、中国のそうした好戦的な対外行動の拠り所とする PLA の軍事活動<sup>9</sup>、とりわけ実体把握については、必ずしも精査が十分とは言えない現状にある<sup>10</sup>。

そこで、本稿においては、中国の好戦的な対外行動を支える PLA の実体を把握すべく、2021年8月17日において台湾周辺で実施された統合軍事演習について報道資料を元に分析する。更に、その演習の同日に台湾の防空識別区（Taiwan Air Defense Identification Zone: TADIZ）内に進入した多数の PLA 機との連関の有無の探究を加えることで、中国が台湾に対して如何なる威嚇を行なっているのか、その PLA の実体把握を試みる。

後に詳しく述べるが、この台湾周辺において実施された統合軍事演習は多軍種が参加した演習であったが、特に水陸両用作戦に主眼が置かれていた。

2019年以降、中国では ZTD-05 などの水陸両用車が頻繁に報道されはじめ、今回の統合軍事演習では、「国家が自国の領土外に戦力を展開・維持する能力<sup>11</sup>」を意味するパワープロジェクション能力を誇示するかのよう報道が相次いだ。これまでも多数の PLA 機が TADIZ に進入する際に、大規模演習を実施することは過去にもあった。しかしながら両者の同時実施がどのような作戦行動上の関連性を持ち、何を意味するのだろうか。これまでの先行研究では、さほど議論は深まっていない。

従って、本稿では、8月17日の同時期におこった 11 機の PLA 機による TADIZ 進入と統合軍事演習を分析することにより、両者の同時実施が何を意味するのかについて議論する。本研究の意義は、作戦のセオリーを踏まえながら分析し、中国の好戦的な対外行動の根源をなす PLA の実体把握を試みることである。

本稿では次のような構成をとる。まず第2節では2021年8月17日における 11 機の PLA 機による TADIZ 進入と統合軍事演習の事実関係を整理する。そのうえで第3節において、作戦のセオリーを踏まえて両者を分析する。第4節においては、両者の作戦行動上の関連性について議論しながら、中国の好戦的な対外行動の根源をなす PLA の実体を素描していく。

研究の手法としては、台湾だけでなく、中国における政府公式資料、政府高

---

<sup>6</sup> 安田淳・門間理良編著『台湾をめぐる安全保障』慶應義塾大学出版社、2016年。

<sup>7</sup> 加茂具樹他『中国対外行動の源泉』慶應義塾大学出版社、2017年。

<sup>8</sup> Noffke, Ariel N., *International Law In Absentia: Legal Constraints and Clarity in a China-Taiwan Scenario*, Air University, May 21, 2021, [https://www.airuniversity.af.edu/Portals/10/ISR/student-papers/AY21-22/InternationalLawInAbsentia\\_Noffke.pdf](https://www.airuniversity.af.edu/Portals/10/ISR/student-papers/AY21-22/InternationalLawInAbsentia_Noffke.pdf), pp.4-7. ノーフケは、台湾を取り巻く非公式な国際法の状況と、中国と米国のますます強固になる国内法によって、中国-台湾のシナリオが発生した場合に米国が活動しなければならない不明確で不安定な状況がますます生まれる、と警鐘を鳴らしている。

<sup>9</sup> 門間理良「中国軍機、台湾 ADIZ 進入規模を拡大」『東亜』no.647、2021年5月、36-43頁。

<sup>10</sup> Trent, Mercedes, *Over the Line: The Implications of China's ADIZ Intrusions in Northeast Asia*, Federation of American Scientists, 2020, <https://uploads.fas.org/2020/08/ADIZ-Report.pdf>, pp.22-42.

<sup>11</sup> パワープロジェクションは“Force projection”とも称される。“Department of Defense Dictionary of Military and Associated Term,” *Joint Publication 1-02*, February 15, 2016, U.S. Department of Defense, p.90.

官の発言、PLA の論考などを中心に検討する。他方、中国資料には常に限界がある。とりわけ PLA に関する詳細は開示されないことが多い。そこで本研究では、中国国内の報道内容から事実関係を精査しつつ、欧米の議論やメディアの報道内容も踏まえながら考究していく。なお、議論の前提として、本稿でいう「PLA 機の TADIZ 進入」とは、後に示す図 1 における「TADIZ の範囲のうち台湾海峡中間線より南側（台湾側）を PLA 機が飛行する行為」を指す。また中国語、英語の資料を使う場合の翻訳の精度については、筆者の責任であることをあらかじめ申し添えておく。

## 2 2021 年 8 月 17 日における中国軍事行動

本節では、入手可能な資料をもとに、多数の PLA 機による TADIZ 進入と統合軍事演習の事実関係を探る。

### (1) TADIZ 進入事例に関する事実関係

2021 年 8 月 17 日午前、台湾空軍は PLA の軍用機 11 機が TADIZ に進入してきたことを検知した。これに対し、台湾軍はスクランブル機を発進させるなどの対応をとった。TADIZ の南西部に進入してきた PLA 機は、Y-8 ASW 対潜機×1 機、Y-8 EW 電子戦機×1 機、KJ-500 AEW&C 空中警戒管制機×1 機、J-16 戦闘機×6 機及び H-6 K 爆撃機×2 機の合計 11 機であった。当該事例に遭遇した台湾国防部は、事例発生後の約 8 時間後に SNS ツイッターを活用し、PLA 機の機種、機数、航跡図などを公表した<sup>12</sup>（図 1 参照）。

そもそも PLA 機による TADIZ への進入は、2019 年頃から常態化していたが、その大半は Y-8 ASW 対潜機などによる単機での監視活動であった。しかしながら、今回の 2021 年 8 月 17 日におこった多数の PLA 機による TADIZ 進入は、筆者の統計によると実に 6 月 16 日ぶりのことであった<sup>13</sup>。

このように常態化しつつある TADIZ 進入を巡っては、台湾側が「いやがらせ」と非難する一方で、中国側は反応しないことが多々あった。今回のケースでは TADIZ 進入の直後に、PLA は台湾周辺で統合軍事演習を行っている事実を発表した<sup>14</sup>。PLA 機の TADIZ 進入事例を巡っては、台湾側も事柄の性質上、詳細なる情報を公開しないことも多く、故に国際社会にとっては採り上げにくい問題となっている<sup>15</sup>。

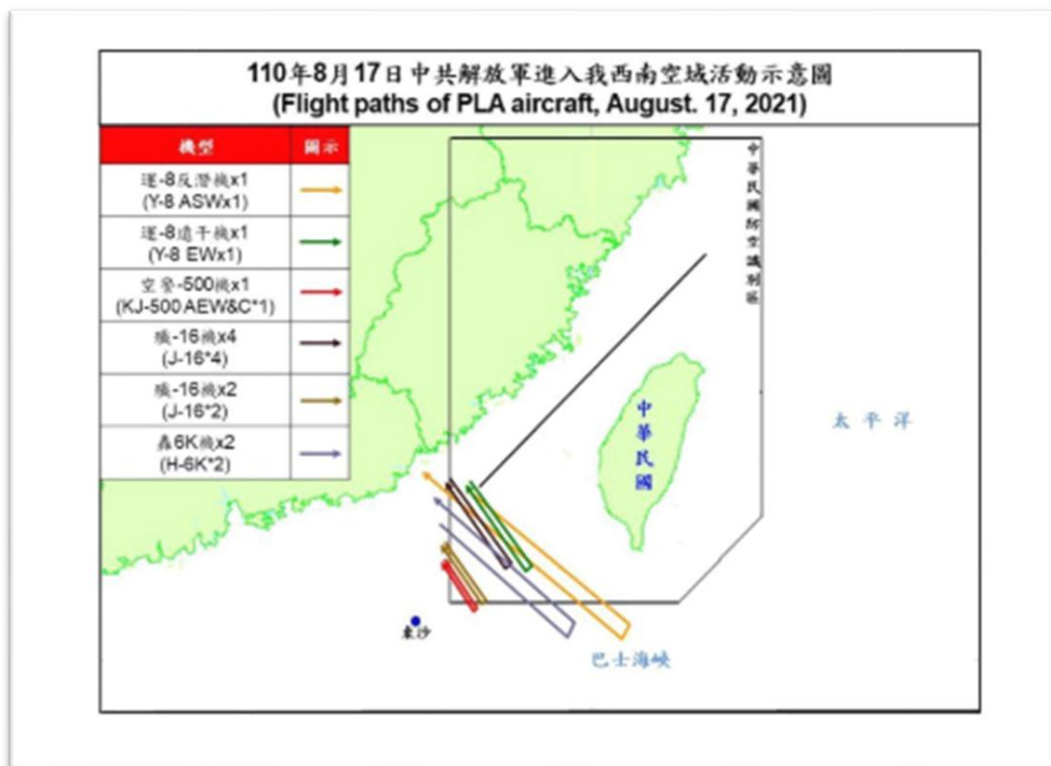
<sup>12</sup> “Taiwan Ministry of National Defense maintains an active twitter account (<https://twitter.com/MoNDefense/status/1427571314487808002/photo/2>, accessed on August 18, 2021), where latest information about the PLA's activities is posted.”

<sup>13</sup> 台湾国防部が公表したツイッター情報などを基に、筆者が集計・分析した結果である。  
(<https://twitter.com/MoNDefense/status/1427571314487808002/photo/2>)

<sup>14</sup> TADIZ 進入については言及しなかった。

<sup>15</sup> 門間理良「台湾防空識別圏で実戦的訓練を行う中国軍軍用機」『NIDS コメンタリー』防衛研究所、2021 年 6 月 8 日。

図1 TADIZに進入したPLA機の航跡図（8月17日）



出典：“Taiwan Ministry of National Defense maintains an active twitter account (<https://twitter.com/MoNDefense/status/1427571314487808002/photo/2>, accessed on August 18, 2021), where latest information about the PLA’s activities is posted.”

## (2) 統合軍事演習に関する事実関係

上述のとおり、PLA機のTADIZ進入を批判する台湾に対し、中国側からの反応はなかった<sup>16</sup>。一方で、PLA東部戦区は、異例にも中国のSNS『微博』上の公式アカウントを用いて8月18日に「権威ある発布」を報じた(図2参照)。それによると、台湾周辺にてPLAが多軍種による統合軍事演習を行っているという。しかしながら、実施規模、参加部隊だけでなく、どれほど台湾に近いのかさえも明らかにしなかった<sup>17</sup>。

東部戦区のスポークスマンである施毅(Shī Yi)上級大佐は、東部戦区において戦闘艦や対潜機などの多軍種による軍事力を投入し、台湾南西部と南東部周辺の海空域で統合軍事演習を行い、戦区部隊の一体化された統合

<sup>16</sup> 日々常態化しつつあるPLA機のTADIZ進入に、中国側が説明したことは殆どない。

<sup>17</sup> “CHINA Conducts Live-Fire Military Exercises South of Taiwan,” *Bloomberg News*, August 17, 2021, <https://www.bloomberg.com/news/articles/2021-08-17/china-conducts-military-exercises-south-of-taiwan-amid-tensions>. Accessed on August 18, 2021.

作戦能力をテストする（原文：检验战区部队一体化联合作战能力）、と発表し、その趣旨を次のとおり説明した<sup>18</sup>。

図2 『微博』PLA 東部戦区公式アカウントによる「権威ある発布」



出典：「東部戦区多軍種在台島周辺実兵演練」『微博』2021年8月17日、

<https://s.weibo.com/weibo?q=%23%E4%B8%9C%E9%83%A8%E6%88%98%E5%8C%BA%E5%A4%9A%E5%86%9B%E7%A7%8D%E5%9C%A8%E5%8F%B0%E5%B2%9B%E5%91%A8%E8%BE%B9%E5%AE%9E%E5%85%B5%E6%BC%94%E7%BB%83%23&from=default>, accessed on August 18, 2021.

最近、米国と台湾は頻繁に共謀して、中国の主権を著しく侵害し、台湾海峡の平和と安定を著しく損なう新たなシグナルを誘発しており（原文：近期、美台频频勾连挑衅发出严重错误信号、严重侵犯中国主权）、海峡の安全保障上の最大のリスク要因となっている。今回の演習は、現在の台湾海峡の安全状況と国家主権を守る必要性に鑑みて必要な行動であり、外部勢力の干渉と「台湾独立」勢力の挑発に厳正に対応するものである（原文：是对外部势力干涉和“台独”势力挑衅的严正回应）。東部戦区は引き続き戦闘準備訓練を強化し、すべての「台湾独立」の分離独立活動を阻止し、国家主権と領土保全を断固として守る決意と能力を保持していく<sup>19</sup>。

<sup>18</sup> 劉莎莎「東部戦区出動多軍種力量，在台島周辺海空域組織統合火力突擊等實兵演練」『中国軍視網』2021年8月17日、[http://www.js7tv.cn/news/202108\\_255227.html](http://www.js7tv.cn/news/202108_255227.html), accessed on August 18, 2021.

<sup>19</sup> 「東部戦区多軍種在台島周辺実兵演練」『微博』2021年8月17日、<https://s.weibo.com/weibo?q=%23%E4%B8%9C%E9%83%A8%E6%88%98%E5%8C%BA%E5%A4%9A>

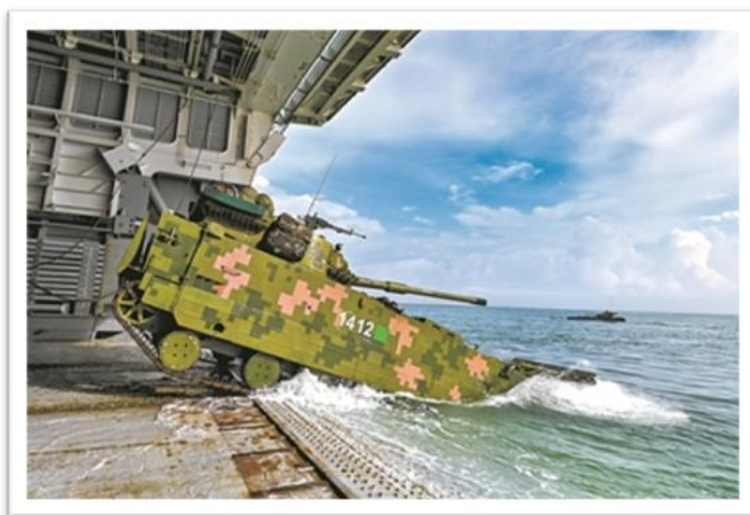
### (3) 報道からみる統合軍事演習の全体像

PLA 機の TADIZ 進入と同じ 8 月 17 日に行われた統合軍事演習は、数週間前から継続されていた水陸両用作戦の演練に焦点をあてられながら報道されていた。特に、ZTD-05 などの水陸両用車が頻繁に報道され、東部戦区スポークスマンの「台湾独立阻止」を意識した主張は、「国家が自国の領土外に戦力を展開・維持する能力」<sup>20</sup>を意味するパワープロジェクション能力を向上させようとする中国側の狙いを表していた。

中国で「特定の戦略目標を達成するために、様々な輸送力を総合的に利用して、作戦地域や危機に戦力を投入する行動」と定義されている「戦略的パワープロジェクション（原文：战略投送）<sup>21</sup>」の追及は、近年の PLA 海軍の強襲揚陸艦の配備の増加に象徴されていた。今年 4 月には、新たに 075 型強襲揚陸艦「海南」が PLA 海軍に引き渡されたばかりだった<sup>22</sup>。

そのような背景のなか今回 8 月 18 日に報じられた統合軍事演習は、水陸両用作戦を主体として数週間前から行われていた訓練の集大成だったようである。8 月 9 日に PLA 東部戦区の水陸両用車が揚陸艦からの出撃する様子を捕らえた写真（図 3 参照）が、翌日の 8 月 18 日付『解放軍報』（第 1 面）に飾られ、部隊の海上戦闘能力を鍛錬した（原文：锤炼部队海上作战能力）とも報じた<sup>23</sup>。

図 3 揚陸艦からの出撃する PLA 東部戦区の水陸両用戦闘車両



出典：『解放軍報』2021 年 8 月 18 日（第 1 面）

[https://www.mod.go.jp/asdf/meguro/center/20\\_stdy/index.html](https://www.mod.go.jp/asdf/meguro/center/20_stdy/index.html), accessed on August 18, 2021.

<sup>20</sup> “Department of Defense Dictionary of Military and Associated Term,” p.90.

<sup>21</sup> 『中国人民解放军軍語』解放軍出版社、2011 年、58 頁。

<sup>22</sup> 相田守輝「習近平出席海軍三型主戦艦艇集中交接入列活動」航空研究センター、2021 年 4 月 28 日、[https://www.mod.go.jp/asdf/meguro/center/20\\_stdy/index.html](https://www.mod.go.jp/asdf/meguro/center/20_stdy/index.html), accessed on August 18, 2021.

<sup>23</sup> 「鍛錬部隊海上作战能力」『解放軍報』2021 年 8 月 18 日。



また中国メディア *Global Times* でも、この数週間で PLA は多様な水陸両用の上陸訓練を行ってきたと報じた。なかでも、PLA 陸軍の第 71 集団軍による海上機動や海岸襲撃、第 73 集団軍による水陸両用強襲などが主眼として演練され、第 72 集団軍による後方支援（兵站）や第 74 集団軍によるヘリコプターによる海上目標攻撃、それに PLA 海軍海兵隊による長距離海上機動などの課目も演練されたという<sup>24</sup>（図 4 参照）。

図 4 射撃をしながら海上を航行する水陸両用戦闘車



出典：章毓攝「陸軍某旅組織兩栖突擊車海上射擊考核」『解放軍報』（第 2 面）、  
2021 年 8 月 14 日。これによると、8 月 3 日に陸軍のある旅団が水陸両用  
車の海上射撃を行った。

報道で焦点となった PLA 陸軍の第 73 集団軍水陸両用重装備混成旅団（原文：陆军第 73 集团军某两栖重型合成旅）では、訓練と戦争を一体化した考え方を堅持し（原文：坚持训战一体）、人材育成に取り組んできたという<sup>25</sup>。実際、このような「訓練と戦争を一体化した考え方」は、繰り返し強調されてきた。このことは、近年の演習においても PLA の報道官が「訓練から戦争への転向（原文：训转战）」の準備を意味する警告的な演習だ<sup>26</sup>とする

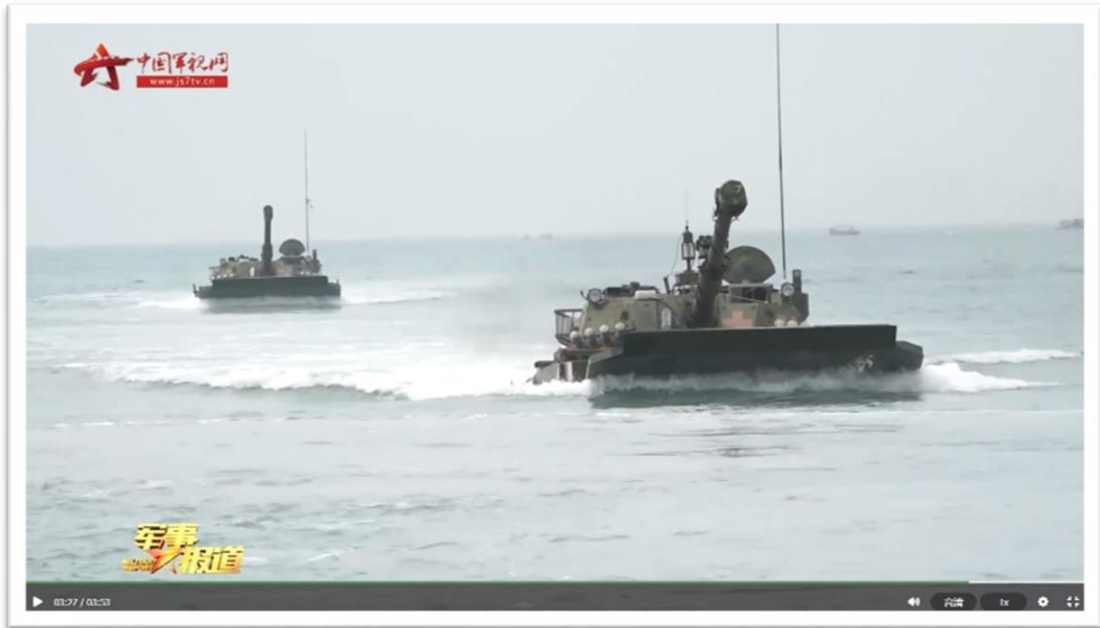
<sup>24</sup> Liu, Xuanzun, “PLA holds joint live-fire assault drills near Taiwan island in direct response to collusion, provocations by US, secessionists,” *Global Times*, August 17, 2021, <https://www.globaltimes.cn/page/202108/1231745.shtml>, accessed on August 18, 2021.

<sup>25</sup> 中国軍視網「【奮進“十四五” 開啓新征程】訓戰一體鍛造兩栖作戰勳旅」『軍事報道』2021 年 4 月 6 日、[http://www.js7tv.cn/video/202104\\_244923.html,%204/7/2021](http://www.js7tv.cn/video/202104_244923.html,%204/7/2021), accessed on August 18, 2021.

<sup>26</sup> 魏少璞「解放軍在台島周辺突兵演練隨時可“訓戰戰”？專家：現在演練已不僅為了震懾」『環球網』2021 年 8 月 17 日、<https://taiwan.huanqiu.com/article/44OMTezNAFO>, accessed on August 18, 2021.

発言とも符合しており、「台湾独立」に対する厳しい警告を意味していた（図5参照）。

図5 海上を航行する第73集団軍の水陸両用戦闘車



出典：中国軍視網「【奮進“十四五” 開啓新征程】 訓戰一体 鍛造兩栖作戰勵旅」

『軍事報道』2021年4月6日、

[http://www.js7tv.cn/video/202104\\_244923.html,%204/7/2021](http://www.js7tv.cn/video/202104_244923.html,%204/7/2021), accessed on

August 18, 2021. (動画再生18秒後の静止画像)

中国メディア *Global Times* によると、中国の軍事専門家である宋忠平 (Sòng Zhōngpíng) は、「東部戦区スポークスマンの発言から判断すると、演習では東部戦区司令部の統制の下、複数の軍種が島に突撃訓練を実施していることから、大規模な水陸両用作戦の演習だ」と解説した<sup>27</sup>。また、中国の某専門家が8月17日当日、*Global Times* に匿名を条件に語ったところによると、演習期間が短いことから、短時間で目標を達成するターゲットの排除（原文：清除目标）、精密兵器によるサージカルアタック（原文：外科手术式的精确打击）、迅速な戦闘による速やかな決着（原文：速战速决）などの個別のシナリオもそれぞれ演練されたという<sup>28</sup>。

また、台湾の中央通信社によると、台湾の中山孫逸仙大学の林穂佑 (Lín Yǐngyòu) によっても、今回の軍事演習の最大の焦点は「東部戦区」であり、

<sup>27</sup> Liu, “PLA holds joint live-fire assault drills near Taiwan island in direct response to collusion, provocations by US, secessionists ”

<sup>28</sup> 魏「解放軍在台島周辺実兵演練随時可“訓転戦”？ 專家」



作戦方面は台湾に向けられていると分析されていた<sup>29</sup>。

### 3 分析

#### (1) 政治的背景からの分析

これまで、台湾を巡って中国が政治的に敏感な問題だと捉えた際には、多数の PLA 機を TADIZ に進入させ、台湾周辺で軍事演習を行ってきた<sup>30</sup>。一例として、台湾の呉釗燮（Wú Zhāoxiè）外相が台湾関係法成立 40 周年を祝賀した直後の 2019 年 4 月 15 日に、PLA 機 24 機と PLA 艦艇 5 隻が台湾周辺で演習を行い、H-6 爆撃機が台湾を攻撃するシミュレーションを行ったという<sup>31</sup>。さらにクラーク米国務次官が台湾を訪問した直後の 2020 年 9 月 18 日には 18 機、19 日には 19 機もの PLA 機が TADIZ に進入し、一部は台湾海峡中間線を越えた<sup>32</sup>。2021 年 4 月 12 日には 25 機もの PLA 機が進入したが、その 3 日前の 4 月 9 日に、米国と台湾の政府関係者が自由に会うことができる新しいガイドラインが締結されたことが契機となった<sup>33</sup>。

では、今回の 2021 年 8 月 17 日に同時に実施された TADIZ 進入と統合軍事演習には、どのような政治的背景があったのだろうか。PLA 東部戦区のスポークスマンが言及した「米国と台湾の頻繁なる共謀」とは、上述した米台接近の動きに加え、8 月初めにバイデン政権が承認した新たな武器売却や COVID-19 用ワクチンの供与のために米軍輸送機 C-17 が台湾に着陸するようなイベントが続いたことが背景にあったと考えられよう<sup>34</sup>。香港や新疆に対する中国の姿勢を問題視する米国、英国、豪州、日本などの「外部勢力」が干渉し、それらが台湾総統の蔡英文（Tsai yīngwén）が率いる民進党（Democratic Progressive Party : DPP）を意味する「台湾独立」勢力を勇気づけている状況も中国は問題視していた<sup>35</sup>。

<sup>29</sup> 「解放軍台島周辺実兵演練、島内震動！」『搜狐』2021 年 8 月 17 日、  
[https://www.sohu.com/a/483968128\\_349109](https://www.sohu.com/a/483968128_349109), accessed on August 18, 2021.

<sup>30</sup> 福田円「習近平政権の対台湾工作—その現状と展望」『交流』2021 年 4 月、No.961、pp.1-6.

<sup>31</sup> 「升高武嚇 共軍年年針對性演訓」『自由時報』2021 年 8 月 18 日、  
<https://news.ltn.com.tw/news/politics/paper/1467467>, accessed on August 18, 2021. なお、2020 年 9 月 9 日及び 10 日には、台湾の南西空域で行われた演習とともに、21 機の PLA 機が TADIZ に進入した。その際、台湾から 166km の距離にある東沙島付近で行われた 2020 年の PLA 軍事演習では、さらに 7 隻の艦艇が投入された（原文：七艘軍艦配合演訓）。

<sup>32</sup> 「升高武嚇 共軍年年針對性演訓」このような PLA の軍事行動に対し、台湾側は「深刻な挑発行為」と非難してきた。

<sup>33</sup> “Taiwan reports largest incursion yet by Chinese air force,” *Reuters*, April 12, 2021,  
<https://www.reuters.com/world/china/taiwan-reports-largest-incursion-yet-by-chinese-air-force-2021-04-12/>, accessed on August 18, 2021.

<sup>34</sup> Nectar Gan and Ben Westcott, “US senators took a military aircraft to Taiwan to announce vaccine donation. To Beijing, that is a major provocation,” *CNN*, June 7, 2021,  
<https://edition.cnn.com/2021/06/07/china/us-senators-taiwan-china-reaction-intl-mic-hnk/index.html>, accessed on August 18, 2021.

<sup>35</sup> PLA 東部戦区のスポークスマンが「台湾分裂活動を阻止する」と主張するように、中国にとって台湾は国内問題なのである。

このような背景のうち、8月17日には特別な政治的背景があったことを、中国外交部の記者会見から読み取ることもできる。この日に行われた中国外交部定例記者会見の場で、華春瑩（Huá Chūnyíng）報道官は、次のとおり米国による台湾への武器売却に関して激しく非難した。

39年前に中国と米国は、共同で8月17日のコミュニケを発表し、米国は台湾への武器売却を徐々に減らしながら完全に停止することを約束した。「8・17」コミュニケ、「上海」コミュニケ、「国交樹立」コミュニケは、中米関係の政治的基盤であり、その核心は「一国主義」である。米側はそれを厳守すべきである。・・・にもかかわらず、米国は台湾との交流を続け、台湾に武器を売却するなど、約束を破った。・・・バイデン政権が最大7億5千万ドルの武器売却を承認した。中国は、米国の不正行為に対して断固として反撃し、中国の主権と国益を守っていく。台湾分離派や、中台の兩岸関係を妨害しようとする者に対しては、あらゆる必要な対抗措置を留保する。

このように華春瑩報道官の会見によると、つい先日（8月6日）のバイデン政権が初めて台湾への武器売却計画を発表し、総額約7億5千万ドルの武器・機材の売却を承認したことが、引き金となっている可能性がある<sup>36</sup>。中国にとっては「8・17コミュニケ」を米国とともに、「台湾」を巡る取り扱い方について外交協議してきた歴史的経緯もあることから、「8月17日」というタイミングは、政治的に活用できる口実となり得たのである<sup>37</sup>。

## （2）作戦セオリーからの分析

台湾メディア『自由時報』は多角的に分析し、TADIZ 進入事例に関して更なる詳細な情報を追加して報じている<sup>38</sup>。即ち、PLA の11機は、8月17日の午前9時30分、9時43分、9時44分、9時53分、10時20分、10時22分と6波に分かれてTADIZに進入してきたという<sup>39</sup>。これらPLA航

<sup>36</sup> 中国外交部「2021年8月17日外交部發言人華春瑩主持例行記者會」『發言人表态』2021年8月17日、[https://www.fmprc.gov.cn/web/fyrbt\\_673021/t1900050.shtml](https://www.fmprc.gov.cn/web/fyrbt_673021/t1900050.shtml), accessed on August 18, 2021. 華春瑩中国外交部報道官によると、米国の歴代政権が過去39年間に台湾に売却した武器の総額は700億ドル近くに達している。トランプ政権だけでも在任中の4年間で11回、合計183億米ドルの武器を台湾に売却したという。

<sup>37</sup> “China urges US to cut off military connection with Taiwan on 39th anniversary of publishing of August 17 Communiqué,” *Global Times*, August 17, 2021, <https://www.globaltimes.cn/page/202108/1231712.shtml>, accessed on August 18, 2021.

<sup>38</sup> 近年のSNSは、その情報収集能力にも目覚ましいものがあり、多くのフォロワーからの投稿情報を重ね合わせると、台湾国防部が部分的に開示したPLA機のTADIZ進入情報の信ぴょう性を裏付けるものになっているという。

<sup>39</sup> 対空無線を傍受していた軍事愛好家が、8月17日午前9時30分から10時22分までの間に、台湾空軍がPLA機に対して計6回の無線による退避勧告していた記録が、SNSフェイスブック上で公開している。それによると、台湾空軍側からの無線による通警告にも応じていないようである。「我海空操演 共機囂張挑釁」『自由時報』2021年8月18日、<https://news.ltn.com.tw/news/politics/paper/1467465>,

跡に対し、台湾軍はスクランブル機を発進させ、無線で警告を行い、対空ミサイルのレーダーで追尾した（原文：派遣空中巡邏兵力應對、廣播驅離、防空飛彈追監）<sup>40</sup>。

改めて、台湾国防部が公表した図1の航跡図では<sup>41</sup>、11機のPLA機のうち、KJ-500空中警戒管制機には2機のJ-16戦闘機が随伴し、Y-8EWにも4機のJ-16戦闘機が随伴していることが伺える。また、H-6K爆撃機2機とY-8ASW対潜機1機にいたってはTADIZの南側境界線を越えて、バシー海峡に出てから引き返している<sup>42</sup>。

シンガポールの南洋理工大学（Nanyang Technology University）の中国研究者オッリー（Olli Pekka Suorsa）らは、このような動きをするY-8の活動には、第一列島線の2つの最も重要な海上のチョークポイントとなる、バシー海峡と宮古海峡の周辺での米海軍などの活動を監視したい狙いがあると指摘する。加えて、Y-8ASWと対艦ミサイルを搭載できるH-6K、JH-7A、J-16などの組み合わせで飛来するということは、接近阻止／領域拒否（Anti-Access/ Area Denial：A2AD）<sup>43</sup>や海上抑止（Maritime Deterrence）を強く意識している証拠だという<sup>44</sup>。また、台湾国防省のシンクタンクである台湾国防安全研究院の蘇紫雲（Sū Zǐyún）も、PLA機のTADIZ進入する目的が米軍によるバシー海峡から南シナ海へのアクセス阻止なのだと指摘している<sup>45</sup>。

ここで台湾メディア『自由時報』が指摘した特異事象に注目してみよう。それによると、一部のPLA機は台湾軍の訓練を攪乱していた可能性が高い。つまり台湾は「射撃通報」という事前公表制度をもって、8月17日を含めた数日における午前10時30分から午後2時30分までの間、台湾の南西訓練海空域の水面から高度29,000フィートまでの空間で、成龍級艦艇の実弾射撃演習を予告していた。併せて、台湾空軍F-16戦闘機も模擬ターゲットとなって演習を支援する予定であった<sup>46</sup>。

---

accessed on August 18, 2021.

<sup>40</sup> Taiwan Ministry of National Defense maintains an active twitter account (<https://twitter.com/MoNDefense/status/1427571314487808002/photo/2>, accessed on August 18, 2021), where latest information about the PLA's activities is posted.

<sup>41</sup> 11機のPLAはいずれも台湾海峡中間線より南側の位置からTADIZに進入していることがわかる。

<sup>42</sup> 「台海軍情」中共嗆今實兵演練 国防部：11架次共機都在西南空域『自由時報』2021年8月17日、<https://news.ltn.com.tw/news/politics/breakingnews/3641535>, accessed on August 18, 2021. 台湾国防部は、PLA艦艇に関するニュースを発表していない（原文：而国防部並未公布中國軍艦相關動態）

<sup>43</sup> A2/AD(Anti-Access/ Area Denial)とは、2つの概念で構成されており、前者のAnti-Accessとは、敵が私の作戦地域へ接近してくることを拒否していく概念であり、主に攻撃機や艦艇、特殊な弾道ミサイルや巡航ミサイルが用いられる。また後者のArea Denialとは、味方の支配下にある地域において、敵の行動の自由を奪う概念であり、主に防空・防海システムなどの防御的な手段が用いられる。Krepinevich, Andrew, Barry Watts and Robert Work, *Meeting the Anti-Access and Area-Denial Challenge*, Center for Strategic and Budgetary Assessments, 2003, pp.4-7.

<sup>44</sup> Olli, Pekka Suorsa and Adrian Ang U-Jin, "China's Air Incursions Into Taiwan's ADIZ Focus on 'Anti-Access' and Maritime Deterrence," *Diplomat*, July 20, 2021, <https://thediplomat.com/2021/07/chinas-air-incursions-into-taiwans-adiz-focus-on-anti-access-and-maritime-deterrence/>, accessed on August 18, 2021.

<sup>45</sup> 「解放軍台島周辺実兵演練、島内震動！」

<sup>46</sup> 「我海空操演 共機囂張挑釁」『自由時報』2021年8月18日、

しかしながら、後に台湾海軍司令部は会見を行い、17日午前にはTADIZ内の訓練海空域で台湾軍が演習を行った際にPLA機が訓練海空域に直接入って攪乱（原文：袭扰）してきた、と指摘した<sup>47</sup>。これを踏まえ、台湾メディア『自由時報』は、図6のように「PLA機がTADIZ内にある台湾軍の訓練海空域に直接進入してきた」と報じた<sup>48</sup>。

このように、図6中の黄色の部分に該当する訓練海空域の直近をPLA機が通過していたのであれば、Jane's年鑑の資料を踏まえると、「Y-8 ASWは故意に接近し、台湾軍のデータ収集を行った」あるいは「Y-8 EWは故意に接近し、台湾軍に電子妨害あるいは電子妨害の模擬訓練を行った」と考えることができよう<sup>49</sup>。であるならば、これらPLA機の航空活動は実任務を行っていた可能性がある。

図6 TADIZに進入したPLA機の航跡と台湾軍訓練空域との位置関係図



出典：「我海空操演 共機囂張挑釁」『自由時報』2021年8月18日、

<https://news.ltn.com.tw/news/politics/paper/1467465>, accessed on August 18, 2021.

<https://news.ltn.com.tw/news/politics/paper/1467465>, accessed on August 18, 2021.

<sup>47</sup> 魏少璞「多批次、多空域」，綠媒炒作：解放軍軍機今日進入台軍西南空域演習的區」『環球網』2021年8月17日、<https://taiwan.huanqiu.com/article/44OIh3Aw83V>, accessed on August 18, 2021.

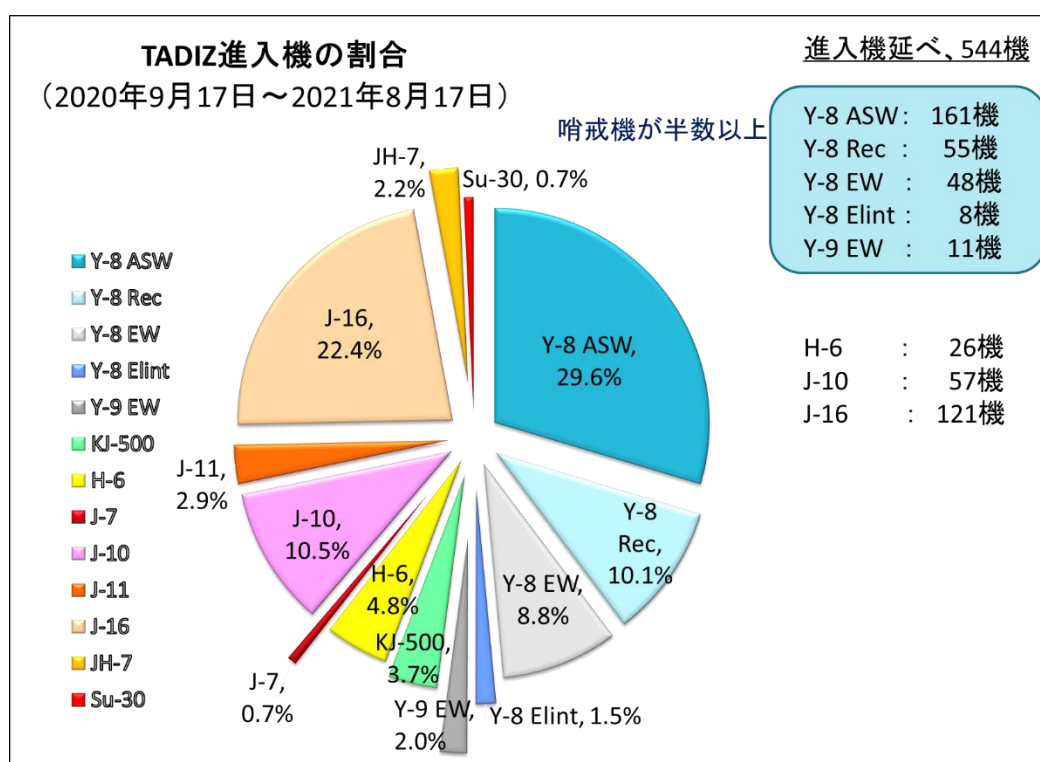
<sup>48</sup> 「我海空操演 共機囂張挑釁」

<sup>49</sup> *Jane's All the World's Aircraft: Development & Production: 2019-2020: 107th edition*, IHS Jane's, May 8, 2019, pp. 112-118.

ここで別の視点から、PLA 機の TADIZ 進入について分析してみよう。台湾国防部が TADIZ 進入事例をツイッターで公表した 2020 年 9 月 17 日から 2021 年 8 月 17 日に至るまで、TADIZ 進入は 209 件もあった<sup>50</sup>。まさに TADIZ 進入が常態化しているとされる由縁である。

また TADIZ に進入してきた航空機の延べ数は 544 機にも上り、その 161 機 (29.6%) が Y-8 ASW 対潜機、55 機 (10.1%) が Y-8 Rec 偵察機、48 機 (8.8%) が Y-8 EW 電子戦機、8 機 (1.5%) が Y-8 Elint 電子偵察機、11 機 (2.0%) が Y-9 EW 電子戦機などの低速の哨戒機が全体の 50% 以上も占めているのである (図 7 参照)。

図 7 TADIZ に進入した PLA 機の機種別割合



出典：台湾国防部が公表したツイッター情報などを基に、筆者が集計・分析・作成した。

(<https://twitter.com/MoNDefense/status/1427571314487808002/photo/2>)

しかも、多数の PLA 機による TADIZ 進入事例には、対艦ミサイルを搭載できる H-6K 爆撃機が 26 機 (4.8%)、JH-7A 戦闘爆撃機が 12 機 (2.2%)、J-16 戦闘機が 122 機 (22.4%) に対して Y-8 シリーズの哨戒機が組み合わせられて飛来するケースが大半であった<sup>51</sup>。この事実は中国研

<sup>50</sup> 台湾国防部が公表したツイッター情報などを基に、筆者が集計・分析した結果である。  
(<https://twitter.com/MoNDefense/status/1427571314487808002/photo/2>)

<sup>51</sup> 台湾国防部が公表したツイッター情報などを基に、筆者が集計・分析した結果である。  
(<https://twitter.com/MoNDefense/status/1427571314487808002/photo/2>)

研究者オッリーが指摘するように、PLA 機による TADIZ 進入が A2AD<sup>52</sup>や海上抑止を念頭に置いている活動であったと小括することができよう。

以上の議論から作戦のセオリーを踏まえれば、PLA はその都度どのような航空活動をすれば良いか、事前に把握していたとも考えられる。だからこそ、PLA は飛行させる機種や規模を適宜変更し、どこまで飛ぶべきか作戦計画を行っていると考えることが妥当であろう。

### (3) 中国国内報道からみた分析

PLA がパワープロジェクション能力を急激に増強しようとしていることは、近年の研究によって警鐘は鳴らされていた<sup>53</sup><sup>54</sup>。例えば、米国ジョージタウン大学のマストロ (Oriana Skylar Mastro) は、2019 年の時点から PLA 海軍が水陸両用戦車 ZTD-05 などを使った海上演習をはじめつつあると指摘していた<sup>55</sup>。そもそも ZTD-05 は、主に PLA 海兵隊の水陸両用作戦において上陸するために設計された水陸両用戦車だったが、今回の演習報道では PLA 陸軍が強調されていた。無論、PLA 海兵隊が増強される昨今、PLA 海軍が演習に参加していなかった訳ではなく、報道されていなかっただけと解釈すべきであろう。

一方、今回の演習の具体的な実施場所は明らかにされていなかったが、報道された演習参加部隊の所在地から、次のように、福建省沿岸で軍事演習が行われたと考えることができる。この ZTD-05 を装備する水陸両用旅団は、陸軍の第 71 集団軍隷下の旧水陸両用機械化歩兵師団が、3 つの水陸両用混合旅団に分割されて編成された経緯がある<sup>56</sup>。習近平中央軍事委員会 (Central Military Commission : CMC) 主席が強力に推進している「軍改

---

<sup>52</sup> A2AD は私の脆弱性を過度に感じさせてしまう流行語だとして批判されるようになった。2016 年、米海軍は同様の結論に達し、内部の戦略文書で「A2/AD」という言葉を実質的に使用禁止にした。その理由は、この言葉が、空間を脅かす能力と空間をうまくコントロールすることを混同させてしまい、敵に過度の信用を与えていることになるからであった。Sebastien, Roblin, “A2/AD: The Phrase That Terrifies the U.S. Military (And China and Russia Love It),” *The National Interest*, April 9, 2019, <https://nationalinterest.org/blog/buzz/a2ad-phrase-terrifies-us-military-and-china-and-russia-love-it-51597>, accessed on August 18, 2021.

<sup>53</sup> O'Rourke, Ronald, “China Naval Modernization: Implications for U.S. Navy Capabilities—Background and Issues for Congress,” *CRS report*, March 18, 2020, <https://crsreports.congress.gov/product/pdf/RL/RL33153/233>, accessed on August 18, 2021, p.31. 中国のパワープロジェクション能力は向上しているが、補給が行き届かなくなる遠距離になるにつれて、2020 年現在の PLA の体制では急激に低下するだろうと言われている。

<sup>54</sup> Kane, Thomas. M, “China's “Power Projection” Capabilities,” *Parameters*, 44, no. 4, 2014, The U.S. Army War College, <https://press.armywarcollege.edu/parameters/vol44/iss4/5>, accessed on 11 February 2021.

<sup>55</sup> Mastro, Oriana Skylar, “China's Military Modernization Program: Trends and Implication,” *American Enterprise Institute*, September 4, 2019, p. 2, [https://www.uscc.gov/sites/default/files/Panel%20II%20Mastro\\_Written%20Testimony.pdf](https://www.uscc.gov/sites/default/files/Panel%20II%20Mastro_Written%20Testimony.pdf), accessed on August 18, 2021.

<sup>56</sup> PLA 陸軍には 13 個の集団軍がある。なお、この ZTD-05 の緑色の迷彩塗装は、海軍ではなく陸軍に属していることを意味する。Chen, Minnie, “Mainland China deploys more amphibious weapons along coast in Taiwan mission,” *South China Morning Post*, August 5, 2020, <https://www.scmp.com/news/china/military/article/3096179/mainland-deploys-more-amphibious-weapons-along-coast-long>, accessed on August 18, 2021.



革」の結果、2017年以降に歩兵師団の多くが軽快機敏な混合旅団に再編されたことが背景にある。第73集団軍も、2017年に解散した自動車化歩兵師団から水陸両用部隊で再構成されている<sup>57</sup>。

このような部隊による大規模な水陸両用作戦の演習は2019年頃から始まり、台湾独立や潜在的な島嶼紛争に対応できる部隊の態勢が整っていることを内外に示す狙いがあったのである。その集団軍には73131部隊と呼ばれる水陸両用部隊が含まれていると考えられ<sup>58</sup>、福建省漳州市に駐留している<sup>59</sup>。この73131部隊では、2021年初頭からZTD-05水陸両用戦車とZBD-05水陸両用歩兵戦闘車(IFV)が配備され、部隊建設が加速されていった<sup>61</sup>。不定期ながらも試験湖で水陸両用作戦に向けた運用試験がなされ、それぞれの車両の水密性が確認され、福建省を中心とした沿岸部の部隊に配備され、海上航行しながら105mm主砲で射撃する訓練などを精力的に行っていた<sup>62</sup>。

一方で、8月17日に実施された中国軍事行動の報道では、大規模な水陸両用作戦が強調されたものの、PLA空軍やPLA海軍航空兵による水陸両用作戦の為の近接航空支援を行う動きや輸送機による空挺降下などは殆ど報じられていない。では、実際の水陸両用作戦で、PLAは如何にエアパワーを活用するというのであろうか。関連する報道でその一端を想像することができる。2021年4月の報道では、航空部隊と連携することによって、水陸両用作戦の三次元上陸強襲(原文:立体登陆突击)を行っていく、という<sup>63</sup>。これに留まらず、水陸両用車が自ら無人偵察機を発射していく様子が報道されていることは、水陸両用作戦におけるPLA部隊の個々の能力が向上しつつあることを伺い知ることができる<sup>64</sup>(図8参照)。

直前の2021年8月14日付の『解放軍報』によると、2021年初頭に最新の水陸両用車を導入した第72集団軍旅団では、部隊の弱点を補強する訓練に主眼が置かれたという。車両間での連携が悪く相互に補完できなかった教訓を踏まえ、航行不能になった車両を海上で救助し牽引するといっ

---

<sup>57</sup> 張文傑他「第73集団軍某旅: 打造渡海攻堅的尖刀鉄拳」『騰信網』November 25, 2019, <https://xw.qq.com/cmsid/20191125A0MIX500>, accessed on August 18, 2021.

<sup>58</sup> 頼文湧他「開訓当天展開野外駐訓, 列裝一周編組實彈射擊: 第73集団軍某旅加速推進戰鬥力建設—“只争朝夕, 從新裝備入營第一天起”」『解放軍報』2021年1月25日、[http://www.81.cn/jfjmap/content/2021-01/25/content\\_281351.htm](http://www.81.cn/jfjmap/content/2021-01/25/content_281351.htm), accessed on August 18, 2021.

<sup>59</sup> 「中国人民解放軍73131部隊保障部物資採購站帳篷採購項目公開招標公告」『中国政府採購網』2019年6月26日、[http://www.ccgp.gov.cn/cggg/dfgg/gkzb/201906/t20190626\\_12336173.htm](http://www.ccgp.gov.cn/cggg/dfgg/gkzb/201906/t20190626_12336173.htm), accessed on August 18, 2021.

<sup>60</sup> 「中国人民解放軍73131部隊軍需營房科薪火相傳主題中標公告」『中国政府採購網』2020年10月8日、[http://www.ccgp.gov.cn/cggg/dfgg/zbgg/202010/t20201008\\_15190471.htm](http://www.ccgp.gov.cn/cggg/dfgg/zbgg/202010/t20201008_15190471.htm), accessed on August 18, 2021.

<sup>61</sup> 頼「開訓当天展開野外駐訓, 列裝一周編組實彈射擊」

<sup>62</sup> Ibid.

<sup>63</sup> 中国軍視網「訓戰一体鍛造兩栖作戰勳旅」

<sup>64</sup> 「霸氣! 兩栖偵察車首次海上發射無人機」『八一軍視』2020年9月18日、[http://tv.81.cn/jbmdm/2020-09/18/content\\_9875313.htm](http://tv.81.cn/jbmdm/2020-09/18/content_9875313.htm), accessed on August 18, 2021.

た機能別訓練が行われた（図9参照）。

図8 偵察無人機を発射する水陸両用戦闘車



出典：「霸気 | 两栖侦察车首次海上发射无人机」『八一军视』2020年9月18日、  
[http://tv.81.cn/jbmdm/2020-09/18/content\\_9875313.htm](http://tv.81.cn/jbmdm/2020-09/18/content_9875313.htm), accessed on  
August 18, 2021. (動画再生1分48秒後の静止画像)

図9 航行不能となった水陸両用戦闘車（右）を救助牽引する訓練の様子



出典：「超燃！水陸两栖卡车海上装备抢救演练！」『八一军视』2021年8月17  
日、[http://tv.81.cn/jq360/2021-08/17/content\\_10076962.htm](http://tv.81.cn/jq360/2021-08/17/content_10076962.htm), accessed on  
August 18, 2021. (動画再生18秒後の静止画像)

『解放軍報』では、この演習を通じて水陸両用作戦における貫通能力が効果的に改善してきた（原文：两栖渗透能力得到有效提升）、と評価した<sup>65</sup>。

このように今回の統合軍事演習では、「軍改革」以降の再編に伴い部隊建設を進めてきた PLA 陸軍の集団軍、とりわけ水陸両用部隊を中心とした機能別訓練がクローズアップされ報じられた。新編された部隊にとっては、パワープロジェクション能力を高めてきた訓練の集大成であったと解釈することができよう。一方で、現時点の報道資料だけでは、これら機能別訓練が統合軍事演習そのものであったのか、あるいは一部分であったのか、判定はできないのも事実であろう。

#### 4 おわりに（考察）

本稿では、8月17日に生じた多数の PLA 機による TADIZ 進入と PLA 統合軍事演習を分析することにより、両者の同時実施が何を意味するのかについて議論することを目的としていた。

8月17日の2つの中国軍事行動において、上述の分析によれば、両者は別々の訓練や活動を行っていた。即ち、福建省沿岸で行われた統合軍事演習では、パワープロジェクション能力を高めるための水陸両用作戦が機能別に演練されていた。一方、多数の PLA 機による TADIZ 進入では、Y-8ASW のように実務上の情報収集活動や監視活動が行われ、対艦ミサイルを発射できる H-6K 爆撃機や J-16 戦闘機はバシー海峡まで進出するなど、A2AD や海上抑止を目的とした活動が行われていた。

であるならば、8月17日の2つの中国軍事行動とは、同じタイミングで別々の部隊がそれぞれの実施していた訓練や実任務を寄せ集めた集合体だった、というのが本当の姿なのではないだろうか。

つまり、水陸両用作戦のような多数の部隊が関与するには8月17日以前から長期間かけて段階的な訓練が行われてきたと考えるのが妥当であろう。一方で、エアパワーは比較的軽易に運用が可能であり、PLA 機による TADIZ 進入は、上層部の指示によって何時でも実施が可能だったのではないだろうか。そのようななか、中国は戦略的メッセージを効果的に発信するため、2つの中国軍事行動の実施時期を最適なタイミングとして8月17日に設定したのである。

この意味からも政治的背景を無視してはならない。そもそも中国では国威発揚のためか、毎年8月15日前後に南京から広州にかけての沿岸地区で軍事演習を行っている<sup>66</sup>。しかしながら、上述のとおり、8月17日とは台湾をめぐ

<sup>65</sup> 陸棟鈺他「第72集団軍某旅：瞄准戰場，瀕海強訓鏈煉兩栖硬功」『解放軍報』2021年8月14日。

<sup>66</sup> The Office of Naval Intelligence, *A Modern Navy with Chinese Characteristic*, U.S. Navy, August 2009, pp. 33-34, <https://fas.org/irp/agency/oni/pla-navy.pdf>, accessed on November 27, 2020.

ぐって米中間で交わした「8・17」コミュニケの39周年にあたる日であった。中国にとって政治的に重視するタイミングであったことは言うまでもないが、バイデン新政権までもが台湾への新たな武器売却を8月6日に承認した事実は、中国にとって強烈な不満を抱く結果となった。

このように、最近の中国は自らの安全保障環境に不満を感じた際、相手を牽制するために大規模な軍事演習を行う傾向にある。当然、8月17日の11機によるPLA機のTADIZ進入と統合軍事演習を同時に実施していくことは、中国なりに政治的意義があるものであり、同時にそれは中国なりの「抑止のあり方」なのでもある。

昨今、「PLAの統合作戦はどの程度進展しているのか」といった議論が盛んになってきたが<sup>67</sup>、今回の8月17日のような事例研究を積み重ねていくことこそが、この命題に新しい資を与えていくのかもしれない。

---

<sup>67</sup> 杉浦康之「中国人民解放軍の統合作戦体制：習近平政権による指揮・命令系統の再編を中心に」『防衛研究所紀要』第19巻第1号、2016年12月、防衛研究所、91-118頁。